場所　愛知県豊田市

面積　0.48ha

活動目的

東の矢作川と西の丘陵地帯に位置する地の利をいかし、『あいち生物多様性戦略2020』のもと”まちなかに生き物を呼び込む«みどりの回廊»“として、周囲の企業の森や公園と一緒に豊田市に於ける「生態系ネットワーク」の一端を担うことを目的として位置付けた。



芝生エリア



ビオトープエリア

サイト概要

愛知県豊田市細谷町の工業地帯の工場敷地内にあるトヨテツの森。森づくりのコンセプト：①.既存樹木は残す（黒松・桜・ハナミズキ・モチノキ等） ②.生物多様性保全活動としてビオトープを設ける ③.苗木を植樹し自分たちの手で森をつくる ④.四季を通して楽しめる花木を植樹するなどを織り込んだトヨテツの森づくりが2011年スタートした。サイトには芝生エリア（2550㎡）、ビオトープエリア（2250㎡）で構成され、森の成長に合わせて、2017年から「未来の子供達に自然を知って好きになってもらい、大人になってからも自然を愛する人に育って欲しい」という思いで、従業員の親子を対象に森での体験イベントを年3回実施。2021年からは、地域住民も参加したイベントを開催。

土地利用の変遷

2011年：「自然を活用し自然と調和する工場づくり」の構想推進からスタート
2012年：旧本社屋の移転に合わせてトヨテツの森の着工
2013年：11月トヨテツの森が完成（芝生エリア、ビオトープエリア）の管理を行い2023年11月末で10周年となる。

サイト周辺の環境

東の矢作川（1級河川）と西の尾張丘陵地帯にはさまれた工業地域ではあるが、点在する近隣企業の緑地、公園などと共に、昆虫や鳥が生息する移動域の中継地となっている。

アピールポイント

森でのイベントでは、親子で生き物さがしや森の恵みを活用した体験学習を実施。ビオトープエリアには、滝や川、池があり地元由来の木々や魚が生息。昆虫の棲家や隠れ場としてチガヤの原っぱをつくり保全している。森の木々も成長し鳥の巣も多く確認、2022年春には巣箱にシジュウカラが子育てしている事を確認できた。生き物調査は年3回定期的に実施し、昆虫は2017年８０種が2023年７月で262種と増えている事を確認。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

トヨテツの森のビオトープエリアには滝や川、池があり色んな種類の昆虫を見る事ができます。川や池には矢作川水系に生息しているカワムツ、モツゴ等がいます。水辺の草やチガヤの原っぱは、昆虫の棲家や隠れ場所としてわざと刈らずに残しています。また、木々は地域在来種を植樹し秋にはグミの実やヤマモモ、クワの実を食べに鳥たちが飛来している光景を確認出来ます。希少種保全として絶滅危惧種のシデコブシを植樹しています。

【主な植生】

・絶滅危惧種：シデコブシを植樹
・チガヤの原っぱ
・地域在来種の木々：コナラ、シラカシ、ヤマザクラ、アラカシ、イロハモミジなど

【確認された主な動植物など】

以下の種を含む多様な動植物が確認されている。
【ビオトープエリア】
<トンボ目> シオカラトンボ（幼･成体）、ギンヤンマ（幼･成体）、クロスジギンヤンマ（幼･成体）等
<チョウ目> アオスジアゲハ（幼･成体）ナミアゲハ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ウラナミシジミ等（成体）
<バッタ目> ショウリョウバッタ、ヒナバッタ、トノサマバッタ、クビキリギス、ホシササキリ 等（成体）
<カマキリ目> オオカマキリ、ハラビロカマキリ等（成体）
<コウチュウ目> ナミテントウ（幼･成体）、ナナホシテントウ、ダンダラテントウ、アオハナムグリ等（成体）
<植物>　カラスウリ、ノブドウ、アオツヅラフジ、ミツバアケビ、ニホンタンポポ（トウカイタンポポ）等
【芝生エリア】
<トンボ目>ウスバキトンボ、ギンヤンマ（成体）
<コウチュウ目>アオドウガネ、アオハナムグリ（成体）
<チョウ目>ナミアゲハ、アオスジアゲハ、オオスカシバ（成体）
<バッタ目>ヒシバッタ、シバスズ（成体）
<クモ目>コクサグモ、ゴミグモ（成体）



写真説明：絶滅危惧種：シデコブシ



写真説明：ビオトープエリアのチガヤの原っぱ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

トヨテツの森のビオトープエリアには滝や川、池があり、昆虫類や淡水魚が生息しています。水辺の草やチガヤの原っぱは、昆虫の棲家や隠れ場所としてわざと刈らずに残しています。また、植樹した地域在来種は成長して昆虫の生息環境になっています。

【確認された希少種】

環境省レッドリストに掲載された昆虫1種が確認されている。

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

東の矢作川と西の丘陵地帯に位置する地の利をいかし、COP10を受けた『あいち生物多様性戦略2020』のもと”まちなかに生き物を呼び込む«みどりの回廊»“として、周囲の企業の森や公園と一緒に豊田市に於ける「生態系ネットワーク」の一端を担うことを目的とし従業員や地域の環境教育の場として位置付けた。

【主な植生】

地域在来種の木々を定植
高木：コナラ、シラカシ、ヤマザクラ、アラカシ、イロハモミジ　等
中木：カクレミノ、ヒサカキ、ガマズミ、ヤブツバキ、カマツカ　等
低木：ヤマツツジ、ミツバツツジ、ヤマハギ、ニシキギ、ムラサキシキブ　等

【隣接・接続する保護地域等】

トンボの数は2017年の調査で80種だったが、2023年4月には206種まで見る事ができたのは、矢作川周辺から丘陵地帯の間には多くの公園や企業の緑地が点在する中でトヨテツの森は中間に位置していることから生態系のネットワークの拠点となっている事を確信している。

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

2019年には近隣のビオトープ担当者からトンボや蝶、鳥などが多く飛来する様になって来た情報も確認、トヨテツの森のビオトープエリアの小川や池周辺、芝生エリアでも多くのウスバキトンボ、コシアキトンボ、ギンヤンマ､クロスジギンヤンマ、シオカラトンボ等は継続的に確認されている。2023年7月には、まちなかでは見ない「チョウトンボ」や「キイトトンボ」を確認することができた。森の成長に合わせ、チガヤの原っぱや小川、池の周りの草木、芝生エリアの管理等が生き物にも棲みやすい環境になっている事で連続性を高め「生態系ネットワーク」が機能していると考えられる。



図の説明、出典:イオンみどり賞受賞式プレゼン資料



写真の説明：ビオトープエリアで観察した「チョウトンボ」

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
＜活動目的＞ 東の矢作川と西の丘陵地帯に位置する地の利をいかし、COP10を受けた『あいち生物多様性戦略2020』のもと”まちなかに生き物を呼び込む«みどりの回廊»“として、周囲の企業の森や公園と一緒に豊田市に於ける「生態系ネットワーク」の一端を担うことを目的とし従業員や地域の環境教育の場として位置付けた。 ＜活動内容＞ ・芝生、ビオトープエリアの草刈りを年4回実施。 ・春先からは外来種駆除も実施。 ・グリーウエーブ（植樹）を5月22日（国際生物多様性の日）グローバルで実施。 ・森のイベント年3回計画（従業員対象2回、一般市民参加イベント1回） ・生き物調査は年3回計画　専門家3名、環境部2名による２時間程実施。 ・日々の管理は工場環境担当者に依頼をして異常があれば、環境部に連絡が入る。 ・ビオトープエリアの滝、川、池周り、森の中の下草刈や木の選定は環境部が主体として管理している。	**【モニタリング対象】** 昆虫類、鳥類、その他（池の中も確認） **【モニタリング場所】** トヨテツの森（芝生エリア、ビオトープエリア） **【モニタリング手法】** 発見した生き物を確認、写真撮影 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 春（4月）、夏（7月）、秋（10月）の午前中実施 **【モニタリング実施体制】** ・よりあい工房ばんどり　酒井さん ・ビオガーデン代表　宮田さん ・特定非営利活動法人もりの学舎（まなびや）自然学校代表理事　水谷さん ・環境部2名